

## 7. 鼎談概要（いなみ野ため池ミュージアムの10年とこれから）

(池本)

「水を求めて」読書感想文で表彰を受けた子どもたちにメッセージを。



(玉岡)

先人の抱いた思いをしっかりと受けとめてくれたと思う。「受」の時に「心」が入れば「愛」になる。ふるさとを愛する心、郷土愛を育んで、つないでいって欲しい。

(池本)

改めて、ため池ミュージアム10年を振り返ってみて、感想など。

(玉岡)



母なる大地、山、川、海。時に厳しい顔を見せるが、私たちに豊かな恵みを与えてきた。その素晴らしい私たちは当然のものと思い、忘がちになる。自分はため池ミュージアムの広告塔を任じてきましたが、皆さんとともに、東播磨のため池の素晴らしいを改めて感じ、全国に発信したい。そのためには、発信し続けていく仕掛けも必要。

毛利衛氏が審査委員長を務めている「日本水大賞」の獲得を、10周年を期にめざすなど、冠を被ることも大切。同賞については、自分も審査委員を務めており、応援したい。

(池本)

ため池の価値や素晴らしさを打ち出していくために、どんなポイントがあるだろうか。

(中瀬)

疏水やため池はまさに近代化遺産。年月を経るに従い、よくなっていく。エイジングの概念、熟成の素晴らしさと言えるかもしれない。利用され、管理されて、地域になじんでいく。今残っているものが大事。

ため池協議会個々の取り組みからネットワーク化、さらに組織化されていることも重要。いなみ野ため池ミュージアムの構想は、エコミュージアム、エコミュゼから来ている。エコミュゼの特徴は、人材の育成、コミュニティビジネス、地域活性化などが上げられるが、さらに、いなみ野ため池ミュージアムの特色として、ため池が群として存在しているところ。これは、日本にしかない。日本の中でも、東播磨、泉州、四国にしかない。



また、ため池協議会に企業の関係者を取り込むべきである。

(池本)

これからいなみ野ため池ミュージアムの展開についてお願ひしたい。

(中瀬)

池干しなど管理の技術を今のうちにまとめることが大事である。

また、池干しにより瀬戸内海を豊かにしていく「里」と「海」の連携・協働を、東播磨発の取り組みとして発信していってほしい。

そして、以前、県立農業高校の生徒が「いなみ野のため池群を世界遺産に」と言っていたが、今は文化的景観そのものが世界遺産と言われるようになってきた。自然との関わりの中で人が作り上げた「いなみ野のため池群」が世界遺産をめざすくらいのことを考えて欲しい。

(玉岡)

山から海へ、そして人の食卓へ。科学技術でちまちまと水をきれいにするのではなく、“海と山が出会い大地と天を結ぶ”自然・ひと・大地を舞台に展開する希有壮大なプロジェクトを進めていきましょう。

第7回流域文化サロンより

テーマ：いなみ野ため池ミュージアムの新たな展開

～いなみ野ため池ミュージアム10年を振り返る～

開催日：平成24年3月10日（土）

会場：兵庫県加古川市総合庁舎1階たばす

鼎談：玉岡かおる いなみ野ため池ミュージアム運営協議会会長

中瀬 勲 県立人と自然の博物館副館長

池本廣希 兵庫大学経済情報学部教授

